

2023年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(中間報告)

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価	
敬・和・創	敬:人を敬い、人から信頼される生徒 和:人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創:自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒	5月8日以降、新型コロナウイルスが5類に移行されたことにより、これまで制約されてきた学校での諸活動も本来の姿を取り戻しつつある。その中で、日々の生活においては、学校教育目標にも掲げられている生徒自らが課題解決していく取り組みを意識した支援を大切にしてきた。特に身だしなみについては、それぞれの判断で気候に合った服装を判断し、選択する姿が見られた。また、各教科の授業においては、グループ活動を中心とする協働的な学びが活発になり、教師が一方的に教え込む授業から、子どもたちが自ら学び取る授業への転換が図られた。一人一台端末も導入3年目となり、教科学習では個別最適な学びを進める上で効果的なツールとして活用できている。タブレット端末は、日常生活に関するアンケート等でも役立っており、活動のスリム化や業務の軽減にもつながっている。 一方で、昨年度に引き続き、家庭学習の在り方や、地域連携については、取組の状況に課題が見られる。家庭学習については、子どもたち自身が学ぶ楽しさを実感し、探究的な学びにつながるような意識付けを図りたい。また、コロナ禍で停滞していた地域連携について、10月の四者会議を足がかりに、活発化させていきたい。	
	重点目標 1 (敬)		【生活習慣の確立】さわやかな挨拶・心をこめた清掃・時を守る 生徒:基本的な生活習慣の確立 職員:生徒に後ろ姿で示す教育
	重点目標 2 (和)		【開かれた集団づくり】合唱を通じた集団づくり・仲間を思いやる行動・伝統の黄色いリボン運動 生徒:自他を認め合い、自己肯定感を高める 職員:共感的な人間関係を育む関わり
	重点目標 3 (創)		【前向きな学習への取組】おぼろしく追究する姿・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び 生徒:自らが主体となって自己決定していく学習 職員:授業のUD化を通して、わかる授業の実現

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題(7月アンケートから) ※右の評価は職員アンケート結果	A	B	C	D	今後の展望
教育活動	生徒指導	規範意識の育成	学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか 職員は、生徒の規範意識を高めるために、自らの行動で示そうとしているか	身だしなみに関する生徒の規範意識は高い。気候に合った服装を自ら判断することができている。	36%	50%	14%	0%	校内生活のルールは引き続き周知すると共に、生徒の主体性や判断も大切に考えていく。
		素直さ・感謝の心を育てる	職員は、生徒の努力やがんばりを認め、あたたかい言葉がけをしているか	子どもたちと近い距離感で生徒と教職員との積極的なコミュニケーションが見られる。	68%	27%	5%	0%	活動の意味づけや価値づけを大切にし、子どもたちの意欲が高まるような支援を続けていきたい。
		開かれた学校・学級作り	職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを発表しあえる共感的な雰囲気づくりに取り組み、楽しく、和やかな学校づくりに努めているか	職員が意識を高く取り組んでおり、学校を楽しんでいる生徒が増えている。	55%	41%	4%	0%	質問紙調査やアンケート等も効果的に活用しながら一人一人の子どもたちへの理解を深めたい。
	学習指導	分かる授業	職員は、子どもの良さを引き出すための、問いのある、わかりやすい授業づくりに努めているか	子どもたちの「問い」から始まる授業づくりにおいては達成状況に個人差が見られる。	36%	41%	23%	0%	個別最適な学びと協働的な学びについて学び合い、知の体系化を図ってきたい。
		集中して取り組む授業	職員は授業時間を守り、授業での追究方法を工夫し、一時間の授業に集中して取り組ませているか	各教科で子どもの良さを引き出すための問いのある授業を意識し、取り組んでいる。	55%	45%	0%	0%	生徒が本時の学習の見通しを持ち、自ら学び取っていくような授業展開工夫していく。
		家庭学習への支援	職員は、教科の専門性を生かし、生徒が自己課題を明らかにし、家庭学習への見通しが持てるような助言をしているか	家庭学習の在り方や助言についての取組には個人差が見られる。	27%	50%	18%	5%	各教科で家庭学習の在り方や意義について再確認し、見通しを持って取り組めるようにしたい。
		道徳性の涵養	学校では、生徒が自己の生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会をつくりだしているか	進路学習を中心に、生徒が自分自身の生き方や将来について考える場を、多く取り入れている。	27%	50%	18%	5%	多様な価値観に触れることや、対話的な学びを大切にしていきたい。
	教育課程	歌声の響く学校作り	職員は合唱に親しみ、歌う喜びを実感できる生徒を育てているか	コロナ禍において工夫しながら合唱活動に取り組んでいるが、達成状況には個人差が見られる。	27%	50%	14%	9%	9月に行われる文化祭での合唱発表会に向けて、全校で歌声を高めていきたい。
		不登校・不適應生徒への支援	職員は生徒の困り感や特性を理解し、一人一人に寄り添って支援をしているか	それぞれの子どもたちの個性や多様性に寄り添いながら、適切な支援を進めることができている。	50%	50%	0%	0%	子どもたちの多様性に寄り添えるような校内の学び場、居場所づくりを大切にしていきたい。
		人権感覚の育成	学校では、黄色いリボン運動・人権教育等を通して、生徒の人権感覚が高まる指導をしているか	黄色いリボン運動や各学年に応じた人権教育を通して、生徒の人権感覚が高まるように取り組んでいる。	36%	64%	0%	0%	「黄色いリボン宣言」の意義を全校で共有しながら、人権教育を進めていく。
		生徒会活動	学校は生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか	生徒会黒板を効果的に活用し、全校生徒への呼びかけ等をスムーズに行った。	41%	46%	13%	0%	子どもたちの主体的な活動になっていくように、見通しの持てるような計画を立てていきたい。
	学校運営	地域との連携	愛郷心の育成	学校では、地域への愛着を高め、地域との連携を深めるための工夫をしているか	10月に行われる「ふるさとタイム発表会」に向けて発表内容や運営方法を協議している。6月の参観日では、コロナ禍では初となる午前自由参観を実施した。	5%	59%	36%	0%
地域から信頼を得る		学校は、学校便り、学年・学級便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を丁寧に知らせ、学校への理解を深めてもらおうとしているか	タイムリーな話題提供を心がけ、多くの人に親んでもらえるような情報発信ができた。	46%	54%	0%	0%	ホームページでの情報発信を効果的に行っている。引き続き継続していきたい。	

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった